

動労千葉を支援する会 ニュース

2026.4.22
416

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DCC会館

〒047-2002 782200

メールアドレス info@doro-shien.site

〒口座番号 0015013192036

26反戦春闘勝利！3月ダイ改阻止！第3波闘争
人事・賃金制度改悪、
機能保全外注化粉碎！
4・1スト貫徹！

動労千葉は4月1日、26反戦春闘勝利！3月ダイ改阻止の闘いの第3波闘争として、「機能保全外注化粉碎、人事・賃金制度改悪やめろ、CTS大幅賃上げ獲得」を掲げてストライキにたちあがった。当日は京葉車両センター前でのスト突入・抗議行動、その後のCTS本社前での行動を闘い、ストを貫徹した。

*機能保全業務とは、主に走行距離や期間（約90日ごと）に基づき、台車、パンタグラフ、床下機器など電車の安全走行に不可欠な機能を検査・交換する定期検査。

京葉車両センター前で

スト突入・抗議行動

京葉車両センター前の抗議行動では、ストにたった渡辺書記長がまずシュブレヒコールを行い、アピールにたった。

渡辺書記長は、続発する重大事故の原因は外注化にあるとはつきりさせ、「我々は一貫して鉄道業務の外注化に

反対し声を上げ続けてきた」「京葉車両センターの武蔵野線運用車両の機能保全業務が外注化される。断じて許すことはできない」と怒りをもって訴えた。また、CTSプロパー社員の仲間に向けて、本来JRで雇われるべきであるにも関わらず低賃金など労働条件の悪い中で働かされていること、プロパー



(4/1京葉車両センター前)

社員もJRで雇って鉄道業務を担うべきだと闘っていることを訴えた。

「どの面を下げて言っているんだ」

さらに、「上からこっさり見てる人も、見物しているんじゃないかって我々の声を聞いてくれ。本日から新しい人事・賃金制度、セカンドキャリアスタッフ制度が4月から開始される。こんなのも外注化がなければ、JR東日本として定年延長していれば、こんな問題は起きない。外注化の目的が、JR東日本、CTSの管理者のポスト作りであることは明らかだ。2月10日の喜勢社長の記者会見の前段で、経営幹部の会議で『外注化のスキームは破綻している』と言っている。どの面を下げて言っているんだ。JRで多く採用して、出向させてグループ会社を回すって言うてますが、そうじゃないだろう」と安全崩壊の中でも外注化を強行するJRを激しく弾劾した。最後に、「機能保全外注化に反対し、本日ストに決起する」と宣言した。

その後、ストにたちあがった組合員からアピールが行われた。

「半年の教育では絶対無理だ」

車両技術分科会の半田会長は、CTSPロパー社員にたった半年の教育で

機能保全業務をやらせようとしていることに対して、「交番検査、機能保全を担ってきたが半年では絶対無理だ」「本当に危険極まりない。ひとたび何かが起きれば、当該の労働者に全責任を負わせて終わりにすることが見えている」と安全を無視し、現場に責任を転嫁しようとするJR・CTSを怒りをもって弾劾した。そして、京葉車両センターの仲間に対して、「自分たちの仕事が奪われている。もっと声に出そう、不満をぶちまけろ」と言いたい。黙っていれば今後もっとやられる」とアピールした。

「許せるはずがない」

幕張支部の北嶋支部長は、京葉車両センターで働く仲間に向けて、「今こそ決起する時です。このままでは仕事はおろか職場も奪われてしまう。みんなで声あげれば変えられるんです。止められるんです。なんで会社が失敗だったと認めている外注化を進めると思えますか？責任逃れなんですよ。社長は責任逃れしてるんで

すよ。グループ会社に全部責任を押し付けて、自分たちはもう鉄道を捨てるって言うてるんですから。許せるはずがないでしょう、2月10日に喜勢社長が記者会見を行いました。その前段で、経営幹部の会議があつて、そこで外注化のスキームは破綻していると。どの面を下げて言っているんだということに改めて声をあげたいと思います。JRで多く採用して、出向させてグループ会社を回すつ

て言うてますが、そうじゃないだろう、こんなこと。みんなで声あげましょうよ」と熱烈に訴えた。

また、動労千葉を支援する会、動労東京環境アクセス支部、船橋二和病院労組が連帯のアピールを行った。



CTSは機能保全業務の受注を撤回し
大幅賃上げを行え！

CTS本社前行動



CTSが一体となつて行つてくる攻撃に対して闘い続ける決意を語つた。

交渉報告を北村書記次長が行い、まず外注化の破たんと安全崩壊の現実の中で、CTSが新たに機能保全業務の受託をしたことを弾劾し、撤回を要求して交渉してきたことを報告した。

41人も要員削減ー「黒字見通し」
また、新賃金についての交渉では、CTSの3月時点の要員数が昨年の743人から702人へと41人も減少していることが明らかになった。エルダーの雇用延長を拒否し、退職後の補充も行わない中で、これだけの要員が削減されたのだ。CTSは「黒字見通し」としているが、結局要員を削減して、現場に矛盾を押し付けることで黒字を稼いでいるだけだ。JRが下請け叩きをやりながら、CTS幹部をJRからの天下りが独占する中で問題化しない構造を作っていることへの怒りを叩きつけた。

「生きさせるの声を」
CTS本社前行動は、翌日4月2日に新賃金回答が予定される中での闘いとなった。中村副委員長によるシユプレヒコールの後、渡辺書記長がイランでの戦争情勢の中で戦争反対を掲げて春闘を闘っていることを明らかにした上で、「生きさせるの声をCTS幹部たち

新社員賃金ー最低賃金を割る
時給制社員ー年間4万5千円減

また、新たに正社員になった仲間が昨年の最低賃金引き上げ以後、最低賃金を割る時間単価で働かされているという現実がある。さらに、4月1日から年間休日数が5日増えることで、時給アップがなければ時給制の労働者の賃金は年間4万5千円減らされる。これに対して、「こんなことがあつていいのか」「何としても大幅な賃上げの回答を」と強く訴えた。

そして、CTSにおいて現場からの闘いで労働者が生きていける賃金を出させることについて、「今のJRのあり方を下からひっくり返していくような重要な意味を持っている」と闘いの意義を明らかにした。

実質賃金がどんどん下がっている
CTSで清掃業務を担う仲間は、「物価が高くなって実質賃金がどんどん下がっている」「これでは生活できない」
「JRによるコスト削減の中で、CTSは清掃の簡略化など自分たちが働いてる誇りを失わせるようなことをやっている」「賃金アップを」とアピールした。

続いて、動労千葉を支援する会、ユニオン習志野の連帯アピールに続いて

各支部からの発言が行われた。

幕張支部の北嶋支部長が、「セカンドキャリア制度を始めたのに、いつまで組合差別をするのか」「JR・CTSを絶対に許すことはできない」「低賃金で辞めてしまおう。ちゃんと働き続けられる賃金を出せ」と怒りのアピールを行った。

貨物協会の佐藤議長は、貨物における超低額回答を弾劾し、これからも闘い続ける決意と共に、イラン情勢の中で「貨物輸送は大変なことになる」としている。労働組合の真価が問われる時だ」と訴えた。

委員長が3波の行動の総括提起

最後に関委員長から、26反戦春闘3波の行動の総括が提起された。また、CTS新賃金について、現場の労働者の低賃金に対して、「社長はいくらもらっているのか」と怒りをもって弾劾の声をたたきつけた。そして、旗を上げ、声を上げ、闘いの力で賃金を上げさせることの意義を訴えた。

また、アメリカ・イスラエルがイランへの爆撃を強行してから1ヶ月という中での反戦春闘であり、「イランの労働者、仲間と一体となって、アメリカ

帝国主義、イスラエル、高市政権打倒へ闘おう」と訴えた。

最後に、中村副委員長のシュプレヒコールで行動は締めくくられた。



26年度CTS新賃金回答(4・1)超低額回答

社員 定期昇給実+ベースアップ5000円 契約・パート社員 ゼロ

第2の開港「粉砕」！ 市東さんの農地を守るう！ 3・29芝山現地闘争



400名で芝山デモ

芝山文化センターにおいて3・29芝山現地闘争が400名の参加で開催。市東孝雄さんは、「反対同盟60年から70年へと続く闘いをあきらめずにやっていきます」と、不屈の決意を表明した。

連帯のあいさつで動労千葉の関道利委員長が、反対同盟との労農連帯を貫き、戦争を阻むこと、国鉄1047名解雇撤回裁判、市東さんの農地を守る裁判を国家権力の壁、反動を打ち破って実力をもって闘うことを表明した。

動労総連合

26反戦春闘勝利に向けて、
各単組が統一行動を貫徹！

動労連帯高崎

木村書記長への3月末雇い止め
＝解雇攻撃撤回を掲げて
3・21ストを闘いぬく！

高崎鉄道サービス（TTS）は、1月27日、木村洋一書記長に対して、「3月末雇い止め」＝解雇の通告を行ってきた。この攻撃は、この間、TTSに対して労働条件改善を突きつけて闘いぬぎ、その中で組織拡大をかちとってきた動労連帯高崎を潰そうとする極めて露骨な組織破壊攻撃であり、JRの「労組なき社会」に向けた攻撃そのものだ。



TTSは、解雇理由として「社員の若返りを指向」「正社員採用で要員を充足」をあげてきた。しかし実際には、退職した自衛官を採用して「血の入れ換え」を行うために木村書記長を解雇しようとする攻撃であることが明らかになった。

不当極まりない解雇攻撃に対して動労連帯高崎は、3月21日、22日、TTS熊谷事業所と籠原事業所においてストライキに突入した。

熊谷駅頭での街宣には熊谷地区労や埼玉労組交流センターの仲間たちが駆けつける中、木村書記長は、「資本によって労働者が好き勝手に解雇されれば、次に来るのは戦争だ。労働組合が反戦闘争を闘う力を取り戻すために、ストを闘う」との闘争宣言を發した。そして、22日には陸上自衛隊朝霞駐屯地への反戦デモを闘い、23日にはTTSとの4時間半に及ぶ団体交渉でTTSを徹底的に弾劾し、そして31日には職場での情宣活動を行い、「解雇撤回！職場復帰への闘争宣言」を發してきた。

動労総連合水戸

人事・賃金制度改善を弾劾して
照沼委員長が4・1指名スト！

動労総連合水戸は、JR東日本が4月1日から新人事・賃金制度を導入したことを弾劾してストライキを闘いぬいた。

新人事・賃金制度は、定期昇給を廃止して「能力昇給」にすることで労働者の団結を破壊し、分断する攻撃であり、労働組合として到底認めることなどできない制度だ。

しかもJRは、新たな制度で「賃金」が上がる「なる宣伝を行っているが、実際には賃下げになる仕組みだ。

こうした攻撃を見据える中で4月1日、照沼委員長が全日のストライキに突入した。勝田車両センター門前には「新人事・賃金制度粉碎！」「組織大再編許すな！」の横書きのボードが配置され、その中で7時にスト突入通告が行われた。そして、組合員や茨城労組交流センターなど地元の仲間が集結する中で抗議行動が行われた。照沼委員長は、「新人事・賃金制度は、管理者さえ説明できないデータラメな制度だ。労働者を競争させ、団結させない攻撃だ」

3/23～26 蘇我、佐倉、津田沼、千葉の各乗務員区前で抗議の宣伝行動



「乗務手当廃止なら乗務員はもういいと言っている」「みんなやる気が無くなっている」「ワンマン化され、運転士への手当を上げるところか減らすのか」「車掌は職場がなくなる。どうすればいいのか」「会社を辞めようか」という声もある」など多くの怒りの声が寄せられた。



支援に駆けつけた茨城地域連帯労組からは、「今年に入り停電などで列車が遅れる。安全無視のJRと闘おう」と訴えた。闘いはこれからだ。さらに団結を維持・強化して闘いぬこう!

と徹底的に弾劾した。さらに、イラン侵略戦争について触れ、「今こそ労働組合が戦争に反対して立ち上がらなければならぬ」と熱烈に訴えた。

動労東京環境アクセス支部 資本による「違法争議」攻撃を粉碎

して4・2春闘行動を貫徹!

環境アクセスでは、労働者の怒りが噴出している状況だ。同じ清掃業務を行っているにもかかわらず非正規に対する差別やパワハラは激しくなっており、職場を去る者が後を絶たない。アクセス資本の本音は、労働者の生活や健康などどうでも良いということだ。3月19日、環境アクセス支部、動労神奈川、ちば合同労組の3団体でアクセス資本との団体交渉を行い、その中で明らかになったことは、労働組合を敵



視し、団体交渉を全く軽視する姿勢だった。しかも、新賃金要求や正社員になりたいという切実な要求に対しても、「検討」すらしていないこと、JR東日本の天下り会社として、JRの都合でしか経費を求めないというアクセス資本の姿こそ清掃労働者蔑視のあらわれだ。

環境アクセス支部は、こんなことを許していたら賃金など一生上がらないこと、言われるままに仕事をしているだけでは搾取され続けることになること、の怒りから、4月2日にストライキに立ち上がることを決定し、アクセス資本に通知を行った。アクセス資本は、スト直前になって「違法争議」などとして争議に対する不当な介入を行い、「違法ストライキになつても良いのか」と脅迫まがいの恫喝まで行ってきたのだ。これに対して環境アクセス支部は、断固として抗議した上で、4月2日には、労組交流センターたちが駆けつける中で春闘行動として環境アクセス本社に対する抗議デモを断固として闘いぬいた。